

〔古今要覽稿 草木〕なでしこ とこなつ 瞿麥 石竹

なでしこ一名やまとなでしこ一名とこなつ一名ひぐらしぐさ一名かたみぐさ一名なつかし  
ぐさ一名かはらなでしこ一名いしのたけ一名のなでしこ一名ちやせんばなは漢名を大菊一  
名大蘭一名蘧麥一名瞿麥一名巨句麥一名句麥一名麥句薑一名石竹一名石菊一名錦竹一名繡  
竹一名南天竺草一名天南竹といふ此草は古よりいづれの國の山野にもをのれとよく生出る  
ものなれどもその名の儘に口物にあらはれしは元明天皇の御時に<sup>出雲國</sup>に生いづるよしそ  
の國の風土記にみえたるをはじめとし<sup>仁多郡條</sup> 聖武天皇の御時には雪島のいはほにおふ  
るなでしこ<sup>集 萬葉</sup> いひ野邊みれば瞿麥の花咲にけりと<sup>上</sup>いひまた見渡せば向ひの野邊の石  
竹或は瞿麥はわがしめし野の花<sup>同上</sup>など歌によりて皆人それの思ひを述延喜の御時には  
いはゆる出雲及び伊賀近江また上總下總などよりも此子を採て藥用に奉りし也<sup>延喜式</sup> その  
をのれと生出る中に野邊のものはその花淡紅色にて山生のもものは稀に紅色のものあり<sup>綱目</sup>  
<sup>啓</sup>今は野邊のものといへどもまた白色のものありこれは弘景の説に一種微大邊有又極とい  
へるものにて近ごろはこれにも數種あり<sup>本草</sup> また近世薩摩種といふものありその花尤大に  
して單葉千葉及び紅白淺深間色の數品ありてみるに堪たり此たねをまくときは花色よく變  
じ野生のものはしからずとも<sup>本草綱目</sup> 啓蒙いへりこれ即野邊に生出るなでしこの一種にして又か  
らなでしこありこれ清少納言のからはさら也と<sup>枕草紙</sup> いへるものにて今は字音のまゝにこ  
れを石竹とのみいひてなでしことはいはず清少納言は深養父の孫元輔の女にして圓融院の  
御時の人なればそれより以前に渡りこしものなれば歌にいたけまたいしの竹とよめるは  
此からなでしこの事なるべしとおもひしが春日野に石の竹にも花咲と<sup>夫木和歌集</sup> いひあづまの  
おくにおふる石竹<sup>藤原賴歌</sup>ともよみしによれば舊よりよみ來りしなでしこと同じ事にて清